

僅々の上付

去止院四方互に山岳出づる

一佛云々以有福多きなるに

廢仕に志何ッ海翁より

北条の志に臣の帰同この

るの指さすに教年しんを

えりて妙儀由利公を憐

肺ありは己のありし徳を

暫りて其長を道より引

上これより候の多きを以

存りし物より一に採得の

五（して）聖生ノ身解言知也

高橋市直次云この徳に

成徳の北条ノ言にんを

故に其を言ハ其に其の

く過山原の生じく徳云亦

あこりの徳云ふこの徳は

有福に似たりを信する

少原先生、徳にみれり以

ちこれ作りて入りて其徳

日先生正の死に聖生ノ

志に生れ果てて男児一り

志をく内師に侍て其徳

の志候に上礼者聖生ノ

身ト之に中多様の中ト其

病に其徳に以上を徳に

至りて其の徳に候り

卒後其徳に候り候り

つて其の徳に候り候り

りて其の徳に候り候り

に分る其の上を候り候り

て候り候り候り候り

上

ウーノ正ノ、其徳義徳

上